

<目指せ！ 1等米比率90%以上！！> JA富山市米品質向上生産運動展開中

秋の土づくり & 次年度雑草対策について

1 土づくり ～秋の土づくり運動（9月15日～11月15日）実施中～

① 土壌改良資材(ケイ酸質資材など)の施用

- (1) 土壌改良資材の施用を中断すると土壌中のケイ酸含量が急激に低下します。継続的に施用しましょう（表1）。
(2) ごま葉枯病（写真1）が多発したほ場では、鉄分を含む土壌改良資材を施用しましょう。

ケイ酸を継続的に
施用することで…

- ① 稲体のケイ酸濃度を高めることで、稲体の姿勢がよくなり、光合成能力を高く保ち、登熟や品質が向上
- ② 割粃の発生が減り、斑点米を軽減
- ③ 茎葉や根を丈夫にし、倒伏を防ぐ
- ④ 病害虫に対する抵抗力が向上する

表1 土壌改良資材の目安

資材名	資材の特徴	標準施用量 (10a 当たり)
けいかりようこう 鶏果良好	鶏糞燃焼灰と鉱物系ミネラルを含む ケイ酸補給できる資材	80～ 100kg
シンキョー ライトP	根張りとし地力を高め、品質と収量の向上に役立つ ケイ酸補給もできるゼオライト資材	60kg
スーパー けいさん鉄	土づくりに必要な鉄や苦土、ケイ酸を補給し、アルカリ分による土壌の酸度を矯正する資材	100kg



写真1 ごま葉枯病の病斑

② 有機物の施用

- (1) 土壌の腐植を増やし保肥力を高めるには、有機物の補給が有効です。特に、堆肥や発酵鶏糞にはカリ等の養分が含まれますので、積極的に施用しましょう（表2）。
(2) 水稻収穫後は、地温の高い9～10月中（ひこばえの出穂する前）に稲わらをすき込み、腐熟を進めましょう。

表2 堆肥の施用の目安（秋施用の場合：10a 当たり）

種類	施用量
牛ふん堆肥	1～2t
豚ふん堆肥	
粃殻堆肥	2t
発酵鶏糞	150kg

③ 深耕の実施

- (1) 秋耕・春耕の2回起こしで、作土深15cm以上を確保しましょう。
(2) 秋耕後に排水溝を設置し、排水を良くしましょう。

深耕により、稲の根を深く伸長させ、肥料吸収効率を高めます。
出穂期～成熟期まで急激な葉色の低下をさせないほ場を作りましょう！

2 秋の雑草対策 ～近年、収穫時にヒエなどが多発しているほ場が見られます
次年度の雑草対策は、収穫後からの除草剤散布～

雑草の発生が多いほ場では、複数年にわたる雑草対策を行い発生量を減らしていきましょう！

① 一年生雑草(ヒエ、クサネム等)の対策

薬剤名	使用時期	10 a 当たり散布量	使用回数	使用方法
プリグロックス L	稲刈り後、または春期水田耕起 一か月前から起耕前まで	800～1000 ml (希釈水量 100～150 L)	1 回	雑草茎葉散布

- 【効果】 1年生雑草の種子の発芽抑制などにより、雑草の密度を低減。
【注意点等】・雑草種子や漏生粃に薬剤が触れないと効果がないので、ワラの下にある雑草種子などに薬剤が確実にかかるようにしっかりと散布する。
・土中の種子には効果がないので秋耕は行わない。
・非選択性除草剤なので、散布の際は風向き等に注意し、周囲の作物等にかからないようにする。



写真2 刈取後にも発生するヒエ等

資材名	使用時期	10 a 当たり散布量	使用回数	使用方法
石灰窒素	稲刈り後、できるだけ早い時期 (10 月上旬まで)	40～50 kg	1回	全面散布

- 【効 果】 ヒエ種子を発芽させ、発芽後（目安：散布 1 ヶ月間後）にすき込み、雑草の密度を低減。
- 【注意点等】・ヒエの発芽には 18℃以上の気温が 15 日程度続く必要があるため、早めに散布する。
- ・降雨後など、稲ワラが湿っている状態で散布。 ※翌年の水稻は、基肥量を削減することが必要。

② 多年生雑草(クログワイ等)の対策

薬剤名	使用時期	10 a 当たり散布量	使用回数	使用方法
ラウンドアップ マックスロード	稲刈り後(雑草生育期)	1 年生雑草:200～500 ml 多年生雑草:500～1000 ml (希釈水量 50～100 L)	1回	雑草茎葉散布

- 【効 果】 塊茎を形成する雑草(オモダカ、ミズカヤツリ、クログワイ等)にも浸透移行し、雑草密度を低減。
- 【注意点等】・雑草全体に十分薬剤が付着するよう散布する。
- ・薬剤がかかりやすくなるように稲ワラを均一に散らす。
- ・気温が低くなると薬剤の効果が十分に得られないので、10 月末までに散布する。
- ・非選択性除草剤なので、散布の際は風向き等に注意し、周囲の作物等にかからないようにする。

③ 「水田畦畔」の雑草対策

薬剤名	使用時期	10 a 当たり散布量	使用回数	使用方法
カソロン粒剤 6.7	雑草発生前～発生始期	4～6kg	1回	全面土壌散布

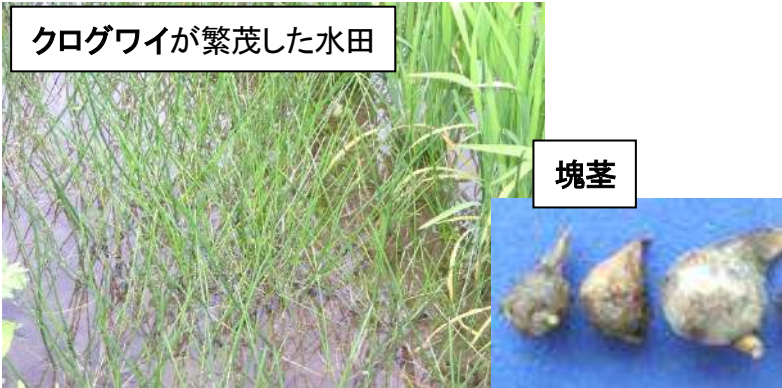
- 【効 果】・秋冬期～春期に、畦畔に散布することで、6 月頃までイネ科雑草の発生を抑える。
- ・カメムシの餌をなくし、カメムシの越冬世代と次世代以降の発生密度を減らす。
- 【注意点等】・均一に散布する。
- ・傾斜が急な法面に散布しない。
- ・大麦等畑作物の作付ほ場及び予定地には使用できません。

主に、ヤツリグサ類・
クログワイ等の塊茎

～ 多年生雑草には秋耕が有効です ～

稲刈り直後から冬期までの間にロータリー耕を行いましょう。

- 【効果】・雑草地上部の埋没や茎・根の切断により、塊茎の形成量を抑える
- ・塊茎を露出させて冬期の低温に遭遇させることで密度を低下する
- ※ラウンドアップマックスロードを散布し、除草剤が根や塊茎に行きわたってから秋耕（散布約 1 か月後）すると、更に効果が高まります！



<秋の農作業安全運動 実施中（8 月 20 日～10 月 20 日）>

- ① 農場の危険箇所や危険な作業を事前に把握し、改善に努める

② 余裕をもった作業計画を立て、複数人での作業を心がける

※トラクターを運転する場合はシートベルトを着用しましょう！

※収穫、乾燥・調製作業中も、「熱中症対策」を徹底しましょう。
- ③各作業に応じた服装、保護具を着用する

④機械等の使用前には点検整備を徹底する